

# 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	実質化前のプランの作成年月	実質化前のプラン更新年月
能代市	檜山地区(檜山、母体、中沢、大森、田床内)	2021年3月15日	2013年7月	2020年10月

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積		609.63ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計		577.09ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計		363.58ha
	i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計(継いでくれるか不明)	92.16ha
	ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計(後継者なし)	92.17ha
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計		62.79ha
(備考)		
(1)檜山地区	田: 209.09ha 畑: 24.40ha	計: 233.49ha
(2)母体地区	田: 88.52ha 畑: 11.78ha	計: 100.30ha
(3)中沢地区	田: 181.83ha 畑: 14.56ha	計: 196.39ha
(4)大森地区	田: 60.32ha 畑: 0.95ha	計: 61.27ha
(5)田床内地区	田: 17.83ha 畑: 0.35ha	計: 18.18ha
檜山地区合計((1)+(2)+(3)+(4)+(5))	田: 557.59ha 畑: 52.04ha	計: 609.63ha
・地域の土壌に適する転作作物の研究		

## 2 対象地区の課題

- ・山間部の未整備地区の耕作放棄地対策が課題
- ・高齢化が進み、後継者確保が課題
- ・ほ場整備区域外の農地の受け手がなかなか見つからない

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

檜山地区では西部に関しては入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。東部は既存法人へ集積・集約しているため、継続していく。

母体地区では入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

中沢地区では入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

大森地区では規模拡大を目指す経営体へ集積・集約していく。

田床内地区では規模拡大を目指す経営体へ集積・集約していく。

#### 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

- 既存法人を中心に、地域内で協力していきながら、集約していく
- 経営規模の拡大と作業の効率化が図られるよう、比較的大規模なほ場を中心に団地化を進める
- 耕作放棄地を解消する

##### 農地中間管理機構の活用方針

- 地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸付ける
- 農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける
- 担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける
- 毎年行われる話し合いを農地の所有者にも周知し、耕作が困難な場合は制度の活用を勧めるようにする

##### 農地の貸付け等の意向（意向調査より確認）

- 貸付け等の意向が確認された農地は、309筆、約40.5haとなっている
- 売りたい意向が確認された農地は、321筆、約35.7haとなっている